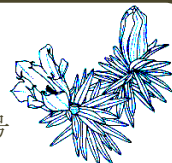


や く し ま こ く り つ こ う えん 屋久島国立公園だより

2021年11月号



かんきょうしょうやくしましぜんほごかんじむしょ やくしませかいいさん
発行：環境省屋久島自然保護官事務所（屋久島世界遺産センター内）
〒891-4311屋久島町安房2739-343 TEL:46-2992 FAX:46-2977



WARM BIZ

屋久島国立公園
Facebook

縄文杉登山の今

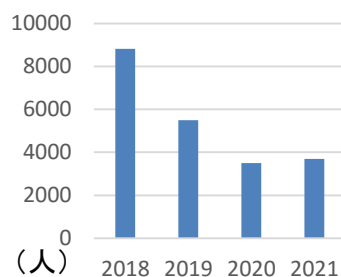
コロナ禍で全国的に旅行者が減少しています。屋久島も例外ではなく、登山者カウンターによる近年の8月の数値を比較すると、2018年から約半減となっています。

2021年の縄文杉の登山者は混雑しやすいお盆でも1日200人を下回る日があり、混雑を感じさせなかったという印象です。ただし、新型コロナウイルス感染症（以下、コロナ）対策として、人の集まるバス停、バス車内、縄文杉展望デッキ等ではマスク着用や3密回避をお願いしているところです。

一般的に登山でのコロナのリスクは低いといわれています。縄文杉登山の場合は長距離歩行の疲労で息があがりやすいこと、前後の人の呼気を避けるににくいことから、人と人との間隔を十分に取るなど、場面に合わせた基本的なコロナ対策は必須だと考えます。

様々な制約を受ける中、リピーターの旅行者に会うこともあり、屋久島の魅力の強さというものを実感しています。アフターコロナといわれる時代はもうしばらく先になるかもしれませんが、多くの方が島の自然の素晴らしさを体験し、共有できる日がいち早く戻ってくることを願っています。

'18-'21年8月縄文杉
登山者の推移



登山者カウンター（大株歩道）の入山者データによる。当所調べ

屋久島を形作る水

屋久島といえば登山・トレッキング、うみがめの訪れる海岸やダイビング、はたまた滝巡りや里巡り。様々な魅力を持つこの島に多くの観光客が訪れます。それらの自然景観や文化を形作るのは屋久島を代表する巨木の森や、複数の川、海岸などです。これらは屋久島に降る豊富な雨の恩恵です。長い年月をかけ岩を削り、木を育て、砂礫を堆積させ、屋久島の様々な景観を構成しています。

中でも屋久島には140余の河川があり、豊富な降水量の影響を受けた渓谷が存在します。これらの渓谷では水に恵まれた環境のおかげで多様な植物が生育し、岩や木を覆う苔が美しい景観を形成しています。

また、水の恩恵は屋久島の里の随所にも見られます。「屋久島は月のうち、35日は雨」と評される豊富な雨は里にも行き届き、飲み水や本格焼酎の製造にも利用されています。

屋久島を形作る水の魅力に触れてみるのはいかがでしょうか。



※溪流の利用は大変危険です。観光客等の一般利用に際しては、ガイド等の随行を必ず行ってください。

冬季登山について



11月に入ると、すっかり日も短くなり冬が近づいているのを実感します。雨が多いことで有名な屋久島では、冬季に寒波が入ると雨が雪になり、里部では雪が積もることは稀ですが、山間部は高標高で気温が低いことから雪が解けず積雪になります。

冬になると、冬山を楽しむために入山される方がいますが、山間部は天気も変わりやすい上に低温になる、降雪と積雪で道が不明瞭になる、気温の低下で登山道が凍結し滑りやすいなど、春～秋の登山と比較しても危険が増します。また、遭難事故が発生した場合でも、悪天時には救助活動も大変困難となり、救助者も危険に晒すことになります。

積雪期では、登山口に雪が無い場合であっても、稜線部には降雪や積雪などで快適に安全に登山ができる状況にない恐れがあるため、安易な入山はお控え頂くようお願いいたします。

※特に以下のような条件の場合、屋久島のどの山であっても登山計画の見直しをお願いいたします。

- ・ 寒波や寒冷前線通過など、天候悪化が予想される場合。
- ・ 初めてのルートや慣れていないルートを計画している場合。
- ・ 冬山装備、緊急時用装備が十分でない場合。
- ・ 冬山に向けての体力、体調が十分でない場合。
- ・ 単独登山の場合。

開催！

2021環境省アクティブ・レンジャー写真展 世界に発信！九州の国立公園と自然の魅力

2021年12月19日【日】～ 2022年1月23日【日】

屋久島世界遺産センター 入場無料

9:00～17:00（16:30最終入場）土曜・12/29～1/3閉館



九州が世界に誇る国立公園、世界自然遺産、ラムサール条約湿地。九州には、温暖な潮流の影響を受けた植生や火山が造り出す独特な景観があり、そこに貴重な動植物が息づいています。それらの魅力を日々身近に感じている環境省職員アクティブ・レンジャーの写真展を、長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島のを巡回して開催します！屋久島では、上記の期間・会場で開催します。ぜひお越しください！

主催：環境省 九州地方環境事務所

いきものコラム

アサギマダラ

屋久島島内を徒歩や車で移動していると、モンキアゲハやアオスジアゲハ、ツマベニチョウなどチョウの仲間をよく見かけますが、この季節になると、ふわりふわりとゆっくりと飛ぶチョウ「アサギマダラ」の姿を見かけることがあります。

アサギマダラは、「旅（渡りを）するチョウ」として知られています。その生態はまだわからないことがありますが、暑さや寒さから逃れ適温の地を求め、秋に暖かい場所へ南下・春に涼しい高原地帯へ北上するといわれています。

この旅の実態は、捕獲したチョウの羽に採捕日・採捕地などを記録してから放し、そのチョウが別の場所で捕獲された際に羽の記録から移動期間や移動距離などがわかる「マーキング調査」によって判明しています。この調査は全国各地で行われており、屋久島で捕獲された個体が徳島県で再捕獲されたり、山形県で捕獲された個体が屋久島で再捕獲されたり、中には屋久島で捕獲した個体が台湾で再捕獲された事例もあり、この調査でアサギマダラが約2,000kmもの距離を移動することが判明しています。



羽にマーキングされたアサギマダラ

本州から南下してきたアサギマダラの屋久島への飛来は11月がピーク！

この秋、旅するチョウ・アサギマダラを見かけたらじっくり観察してみたいはいかがでしょうか？

※マーキングされたアサギマダラを見かけたら、鹿児島県博物館へお問合せ頂くと詳細がわかります。
※屋久島世界遺産センターでは、マーキングシートを無料配布しています！マーキングに挑戦される方はお気軽にお越しください。